

麻布の丘に

「源泉」を豊かに

校長 根岸隆尾

昨今、教育をとりまく状況は、大きく揺れ動いている。学校完全五日制実施にともない、教え、学ぶべき教科内容が大幅に削減されたことから、学力低下への不安が拡がったためである。その結果、土曜日や夏休みに補習を行う学校も増えている。

そうした不安や世の批判に対し、文部科学省は、「学習指導要領は教える最低基準を示したものである」「ことを強調したり、教科書を越えた内容(発展的な学習)を教える手引き(教師用参考資料)を発表したりしている。」「ゆとりある教育」や「総合学習」によつ



て生徒の考える力や創造性を高めるといふ理念とは裏腹に、かえつて「ゆとり」をなくす現象を惹き起しているのである。一方でまた、文部科学省は、教育基本法を「改正」し、「愛国心」「公」への意識など所謂道徳教育をも強化しようとしているのである。

言うまでもなく、中等教育における教育活動の根幹は、「人格をつくること」と「学力をつけること」の二点にある。この二点を少年期から青年期に入る入り口にある生徒達に如何に学ばせるか、われわれにとつてまことに大きな課題である。そのことを考えると

私、私は、その精神を江原先生に見るのである。

江原先生は、「人としてこの世に処するには人格が一番大切である」との信念を持って、終生青少年の教育にあたられた。明治の末年、先生は、鉄道青年会発会式で、「個人の価値」は、御上の命令に盲従するような奴隷根性より抜け出すことによつ

広報誌
第5号
2002年10月19日
発行
麻布学園
〒106-0046
東京都港区元麻布
2-3-29
Tel 03-3446-6541
Fax 03-3444-2337
HP-URL
<http://www.azabu-jh.ed.jp/>

て上がる。「官の威光」によってではなく、「己の職責責任に顧みて誠心を尽くす」ことが肝要である。旨を説かれ、次のようなエピソードを語っている。

「聖書の中に基督が繁つて居る所の無花果の木を看まして、大方実があるだろうと云うので、近づいて其実を喰わんとする時に、一つの実もありませんでした。基督はその無花果に向つて、実のないものは枯れて了えということを示した時に、其無花果が枯れたという事であり、之は如何にも面白い言葉であります。諸君の御存知の通り果物の実は何時結びますか、葉のない時でありますか、そうではない、桃でも、梅でも総ての果物は葉の茂つている時に、其葉の中に実を結ぶのである、葉のある時に実を結ばざるものは決してないのである。然らば吾々生涯の運命も、青年の時期に実を結ばなければ、熟する時はないのである。」

青少年、とりわけ十二、三歳から一七、八歳の中高生は、いつの時代でも、決して単純ではなく、或いは真実を直観し、人生のいろいろなる事を知り、考え、そして悩み、大人や社会に対して批判的にもなる。しかし、時に絶望したり、

希望を持つたりしながらも、暗中模索の中で、何かに向かつて動くとする力に充ちている。その力こそ、人格をつくり、やがて、実を結ぶ「源泉」に他ならないのである。

とすれば、われわれに課せられているのは、彼ら一人一人の独自の「源泉」を如何に豊かに噴出させるかである。生徒の知的興味、関心を絶えず喚起し、彼らの内に潜む多様な可能性を自ら発見させるためには、われわれ自身、自ら学びつつ生徒と共にあることは必須のことである。流れない水は、澱み腐り、枯渇する。

学園の教育体制は、どのような体制を採るにせよ、この見地から見直すことが欠かせないのである。

ホーム・カミング・デイ
来年は四月五日

去る四月六日、本校中庭にて学園主催の第二回目のホーム・カミング・デイの催しが行われました。卒業生の方々が同期会を兼ねてあるいは「家族連れで参加されるなどして総勢六〇〇余名の方々にあつまりいただき、楽しいひとときを過ごすことができました。

今年も満開の桜の下での開催を期待して準備してまいりました。全国的に桜の開花が早くなり、本校の桜も八重桜をのぞいて当日はすでに葉桜となっていました。



開会の挨拶では田中亮三理事長から、今後は毎年四月の第一土曜日を「ホーム・カミング・デイ」として恒例行事化していくとの発表がなされました。引き続き根岸校長からは学園の現状と将来の展望についての報告がなされ、鏡開きののち、校内のあちらこちらで談笑の花が咲きました。

今回から参加費の事前振込制にご協力いただきましたが、催し物では旧教職員を囲む会、記念撮影、一九五〇〜六〇年代の文化祭・運動会・学年旅行のフィルムの上映会など、新しい企画をいろいろと打ち出してみました。今後とも試行錯誤を重ねながら、より有意義な集いとなるよう工夫していく所存ですので、皆さまお誘い合わせのつえ、ご参集ください。来年は四月五日(土)午後二時より開催予定です。二月中旬頃にご案内をお送りいたします。(平)

今様

麻布学園には様々な生徒がやってくる。彼らの個性はとても豊かで、様々な形で「自分」

運動場からの風景 六本木に高層ビルが出現し、運動場からの風景は一変した。



服装・グッズ

麻布は標準服が存在するものの、基本的に服装は自由である。

それでも二十年前には、詰め襟の学生服姿も見られたが、いまでは、さまざまなスタイルで生徒は学校にやってくる。例えば、靴についていえば、黒の革靴はもはや昔ことで、スニーカーシューズが主流である。また夏には動きやす



登下校時の服装



後ろにデイバックという姿も増えた

いさっぱりした服装が主流である。またカバンを持つより、デイバックで登校する生徒が目立つようになった。

一方、彼らの持ち物のなかで、



電子辞書は勉強に不可欠？



いろいろな機器を側に置いての自習風景

職員室

麻布の職員室を訪れる生徒は、多い。授業の休みに通りぬけていく生徒もいれば、相談にやってくる生徒もいる。生徒たちの相

最近目立つのは、携帯電話に加えて、電子辞書である。これらは生徒たちの「必須アイテム」になりつつある。



職員室を通り抜けていく生徒達



単語帳は今でも顕在



昼の個人面談



今日の相談内容は？

談内容はいろいろだ。勉強のこと、将来のこと、最近あった出来事をいろいろ話して帰っていく生徒もいる。
昼休みになれば、職員室の一角では、面談が盛んに行われる。このように麻布の職員室はにぎやかである。

麻布の

を主張して
る。
そこで今回
は、授業以外の
生徒たちの姿を
中心に、「麻布
の今様」を紹介
する。
(甘利・鳥越)

授業外の風景

授業が終わった放課後でも、生徒の活動は続く。まずは、教室の掃除。そしてゴミが分別される。その後に教室は、様々な語らいの場となる。仲間とゲームに興じる姿もよく見られる。

一方、自治活動も活発に行われるし、学年行事の計画のための話し合いも始まる。また図書館では



高1放課後の掃除の風景

コンピュータスペースに生徒が集まる。生徒に開放された二十台のコンピュータでは、インターネットが盛んに利用されている。
このように、エネルギーあふれる生徒たちは、互いに刺激しあいながら成長していく。



屋上で楽しく語らう



予算委員会の会合



うーん！ そういう手があったのか！



インターネットで情報収集



高2学年旅行の打ち合わせ



地下食堂は生徒でにぎわう

麻布生の多くは家から弁当を持参する。早起きしてお母さんが作ってくれる弁当は、肉類が中心だが、栄養のバランスも考えられている。しかし彼らの食欲旺盛ぶりには、弁当だけでは満たされない。そこで登場するのが、地下食堂である。カレー、スパゲッティ、焼きそば、おにぎり、菓子パン、スープ、牛乳、ジュース、さらには軽

食



笛の試験に備えて練習



地下食堂のカレーライスは大人気

い弁当も用意されている。授業間の休み時間や、昼休みには地下食堂は生徒であふれんばかりとなる。



お母さんのお弁当には愛情たっぷり！

インタビュー 麻布 旬の人

聞きて 廣瀬・氷上



麻布での思い出は？
中一の時学園紛争でロックア
ウトを経験した。先生方の世代
交替の時期でもあった。その中
には大変お世話になった先生も
いらつしやう。思えばその当
時は紛争を受け止めるだけの自
我の形成がまだできていなかっ
た。いろいろな影響が一度にか
ぶさってきた。自分自身の問題
も、自我の未形成のうちの一つ
の「リアクション」の形であつ

た。しかしその後の学園生活の中
で理解できてきたことは「自由」
の意味だった。例えば制服着用義
務がなくなったという事実は、「
自由になった」ということだ。し
かしそれは「自分で責任をとりな
さい」ということでもあった。麻
布のスゴサは、私のような生徒で
も人格を認めてくれて、卒業させ
てくれたことだ。

進路選択は？

高三の頃は真剣に「手に
職」をつけなければだめだと思
っていた。「板前」の道に進
むことも考えた。が、医者の道
は、ある程度勉強さえできれば
レベルに乗ることができ、「手
に職」という点で言えば最も安直
な方法ではあった。今振り返る
と、「徹底的な落ちこぼれ」になら

医学の普遍性に感動

国境なき医師団 日本
副会長 白井律郎さん

東北大医学部へ、さらに大学医
いたのだと思う。
局へ
私は本来文科系の人間だと思
う。「身体を動かすことから思考
へ」の道筋を辿つていった。ただ
東北大ではアイスホッケーばかり
やっていたように思う。しかし医
局へ入つてからの十年間、外科の
勉強ばかりで、他に本も読まず、

論者になつてしまふ。現場を少し
だけ離れて、頭で考える時間が必
要だと、痛切に思つていた。私は
医局を辞め、仙台赤十字病院勤務
となった。その二年目に「赤十字」
を通してアフガン行きの話が恩
師からあつた。家族の協力だけで
なく、多くの人々の助けを得てク
エッタに赴く。参加して文化・気
候・風土など、外国人との小さな
コミュニケーションの中ですべて
が新鮮に感じられた。やがて
「国境なき医師団」への参加
となつていった。

NGOの集合体の中で働いて

夢中で外科医になる努力をして
きた自分、それは、あくまでも日
本人社会の中でだけ通用するもの
だと思つていた。しかし、「こゝで
そのやり方が外国でも通用するん
だ」という自信を得た。同時に、
「世界が見えた」という感じを強
く持った。医学の普遍性というこ
とが信じられ、またとつともない
感動をもたらしてくれた。

さらに、NGOコミュニケーション
はとても良い環境で、素晴らしい
友達に多く恵まれ、精神的に安定

国境なき医師団へアクセスを！
国境なき医師団は、一九七一年、「赤十字」以外の民間団体として、自分達の
手で医療をという理念で発足した。起動力への欲求と証言活動(テストモ二)とを根
本に置いた。現在、世界一八ヶ国に支部がある医療活動を行う団体である。年間ホ
ランティアとして三〇〇〇人位が参加している。どのような形でもよいが、どうか
一人でも多くの御協力をお願いしたい。気軽にアクセスして下さい。
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒161-0033 東京都新宿区下落合四一四 一〇
TEL 03-5988-0560 FAX 03-5988-0561
http://www.japan.nsf.org/

医学は科学だ
が、経験律のよう
なものが先行する
場合がある。だが
それだけどつぱ
り潰かっている
と、それはだめだ。
狭い微視的な経験

- うすいりつろつさん
一九七七年(昭和五二年)麻布
高校卒 四三才
東北大学医学部卒
東北大学医局
仙台赤十字病院勤務
一九九四年 アフガン派遣
一九九六年 スリランカ・パブ
ニア派遣
一九九八年 スリランカ・パ
ティカリア派遣
同 国境なき医師団・
評議員・理事とな
る
二〇〇一年 アフリカ・ブルン
ジ派遣



した。
十年間
の空白
という
ものが
自分を
「バカ」
にさせ
ていた
ことに気づかされた。そして最
も貴重なことは、ごく自然に体
の中に湧き出るものとして「再
度行こう」というモチイベー
ションを獲得したことであつ
た。

最後に、麻布生へ一言
私としては、麻布で身につけ
た「在野精神」を持ち続けたい
し、それを後輩に受け継いで欲
しい。

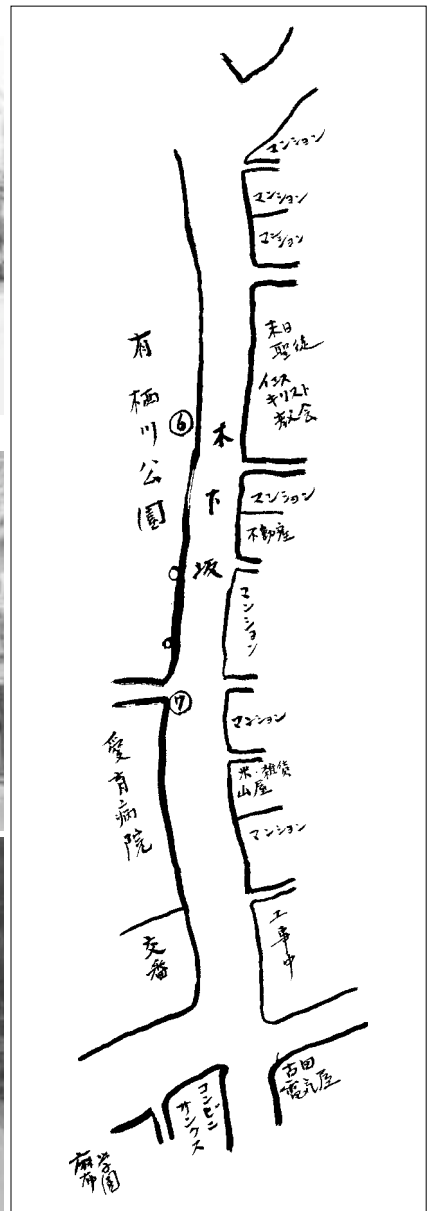
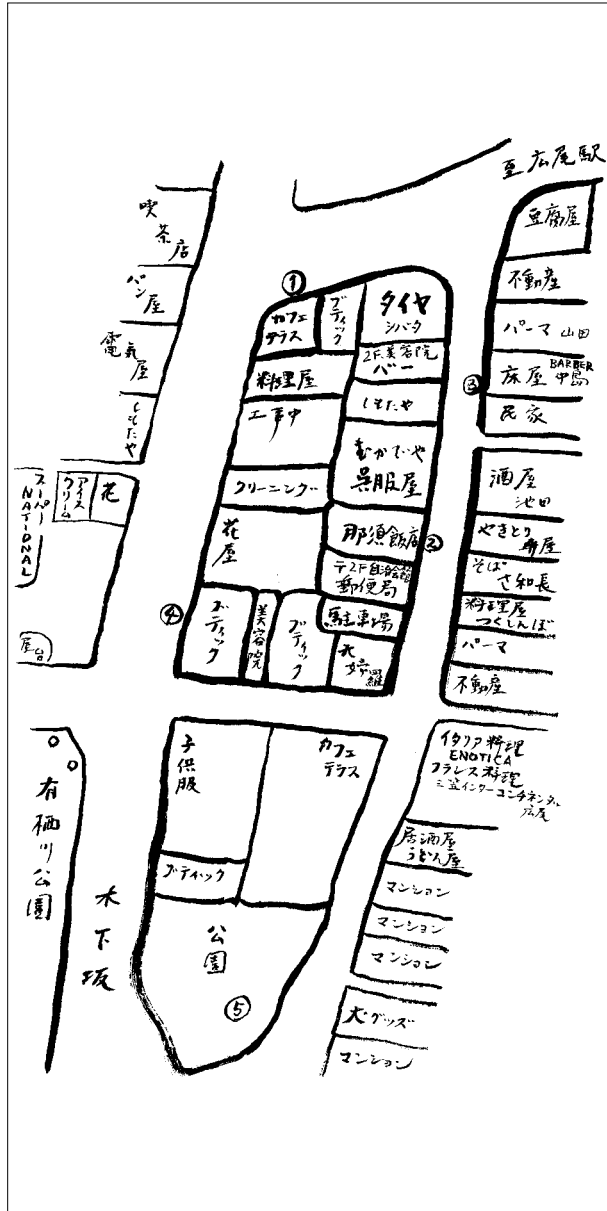
「自分で考え、判断し、そして実
行(行動)に移しなさい。その行
動の責任は自分でとりなさい」
これを真面目に少しずつ実行し
て日々生きていくことが「在野
精神」だと思う。

今日はお忙しい中、ありがと
うございました。

麻布 への道

木下坂

朝な夕な麻布の生徒が最も利用する通学路 木下坂。木下備中守(岡山・足守藩)の下屋敷が坂のほぼ中央。今日の「教会」あたりにあったという。その激変ぶりを確かめてみた。(水上・廣瀬)



学園事務室から

正門前道路の拡幅

港区では災害時の広域避難場所である慶応大学(三田)一帯と、有栖川公園一帯を結ぶ避難経路及び生活物資輸送路を確保するため、重点的にこの区間の道路拡張計画を進めている。

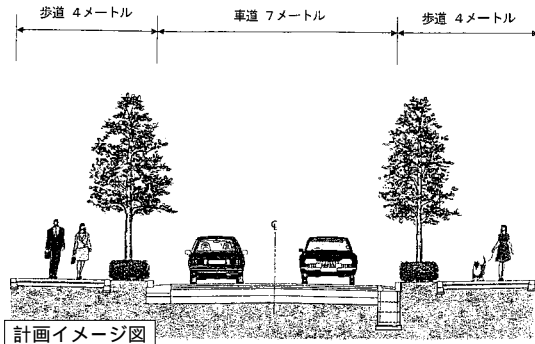
この計画は二〇数年前からあったが、この六月、麻布運動場から愛育病院の区間について、東京都の事業認可を得たことにより、この区間の計画が具体的になってきた。

計画では、車道七メートル、歩道左右各四メートル、電線類は地下埋設となり、十分な歩道が確保されることになる。

麻布運動場付近は区の所有地でもあることから、すでに拡幅されているが、計画区間内にはローンテニスクラブ、愛育病院、カタール大使館等があり、それぞれの敷地の一部が計画道路にかかるため問題も多い。今後港区はこれらの地権者と補償等について話し合いを進めていくことになるが、このような問題は一般的に時間がかかるので、実際に工事が着工できるのはまだまだ先になりそうだ。(港区では五年をめどに考えているとのこと)

学園は正門通路面が一部計画道

路にかかると、周辺の状況を見極めながら対応していくことになる。



「学校一一〇番」の設置

大阪教育大附属池田小学校の児童殺傷事件を契機に、学校の児童生徒に対する安全対策が注目されている。

学園では、東京都の補助金により非常警報装置(「学校一一〇番」)を事務室と職員室に設置した。この装置は監視庁に直結し、非常ボタンを押すと何処の学校かを判断し、最寄りのパトカーや警察官が学校に急行することになっている。

非常ボタンを押すような事態が発生してはならないのは勿論である。

学園では常日頃から生徒の安全

「卒業生名簿」購入のお願い

平成一三年六月「麻布学園卒業生名簿(平成一三年版)」が発行されました。卒業生名簿会計の維持上、引き続き、卒業生の皆様にご購入をお願いいたします。

お申し込みは左記のとおり「郵便為替」でお払い込みください。受け付け次第ご自宅にご送付します。(国内送料は学園負担)尚、情報管理の関係上、頒布は学園卒業生・在校生保護者本人宛自宅送付に限らせていただいておりますのでご了承ください。

名簿代金 四、〇〇〇円

口座名 学校法人麻布学園名簿係

振込先 郵便局

口座番号 00190-6-162294

その他 卒業年度(在校生は学年・組)をご記入ください。

* 指定振り込み用紙がお手元にならない場合は、郵便局窓口備え付けの振り込み用紙に口座名・口座番号をご記入の上払い込み手続きをしてください。

麻布学園卒業生名簿係

「W杯サッカー」に見入る生徒達

確保につとめているが、学校は比較的誰でも入りやすい処なので、校内で見知らぬ方を見かけた場合は、声をかけることを励行している。ご来校の際はまず事務室に申し出て頂きたい。(関)

施設・設備紹介 大視聴覚

大視聴覚室(理科棟地下)には卒業生から寄贈された大型液晶プロジェクターが設置されている。テレビ、ビデオ、DVD、PCに対応し、用途も幅広い。先のワールドカップで

は放課後に日本戦を公開した。

臨場感あふれる大スクリーンに

生徒たちは歓声を上げていた。(関)



募金ご協力の御礼

平成一三年一〇月以降、募金にご協力くださった卒業生と学園関係者の皆様を左記のとおりご報告いたします。

ご協力ありがとうございました。誠にありがとうございます。

尚、お名前の表記につきましては原則として新字体を用いております。ご了承ください。(敬称略)

教育施設維持

改善の為の寄付金
大武 和夫(昭46卒)

大山 稔

兼次 弘

AEUリードエージェンシー

神谷 達司(昭53卒)

尚、在校生保護者の皆様につきましては、別途PTA新聞の折込報知でご報告いたしております。

麻布学園奨学基金

昭和四五年卒一同

小浜 逸郎

佐藤 幹夫

田園麻の葉会

二三四会

田中 亮三

卒業を祝つ会

麻布学園PTA

PTA有志「麻布発見」

PTAリサイクル収益金

現物寄付

永井常保(昭24卒)

電子ホワイトボード他

サークル活動紹介

前号に引き続き、サークル連合に加盟しているクラブの昨年9月から今年8月までの活動状況をお知らせします。

なお、サークルの活躍は、本校ホームページでもくわしくお知らせしています。ご覧下さい。

(松田)

《運動部系》

アーチェリー部 毎日近射等の練習。春合宿 波崎 夏合宿 木島平。年十回程度、大会に出場。

アメリカンフットボール部 春期都大会ベスト16。

オリエンテーリング部 01インターハイ 個人戦 三位 高小三山温史 四位 高二海老成直 団体戦二位(高三長瀬・川名・高二下島)。併設大会 優勝 寿松木健太。01ジュニアチャンピオン大会 JME三位 川村渉。

剣道部 中学 第一ブロック秋季大会三位。第一ブロック春季大会準優勝。第一ブロック夏季大会団体戦優勝。同個人 優勝中三篠崎宏祐 高校 第四支部大会一年の部三位。関東大会都予選ベスト32。関東大会個人都予選ベスト32 高一菅偉辰。

硬式テニス同好会 部内対抗戦ALTAカップ優勝 高二岩下 準

優勝 高二石川。

硬式テニス部 中学 関東大会出場 ダブルス丸茂・廣田組。高校都秋季大会ベスト16。

硬式野球部 年間八十試合行っている(含 練習試合)。部員数も増え、週五日の練習にも活気が見られ、心技体をモットーに、日々、野球の神髄を探し求めている。麻布ではちよつと異質なクラブ？

サッカー部 中学 新人戦支部大会出場 夏季大会支部大会出場。

山岳部 冬 高校 鳳凰山 中学 御前山。春 中高共に笠取山、飛竜山、丹波。夏 高校 南アルプス(広河原)北岳、濃島岳、奈良田) 中学 北アルプス(白馬大池、白馬岳、猿倉)。その他月一回のハイキング。

柔道部 中学 都学年別大会出場。高校 都学年別大会ベスト16。関東、都大会出場。

水泳部 十月に代替わりを終え、その後四月まで陸上トレーニング等を行ってきた。四月からはプールで、水泳を中心として活動中。

スキー部 中学 全国中学大会出場 中三朝比奈諒、高校 関東大会出場 高二谷口達郎 高三渡部成宜。国体出場 高二谷口達郎。

ソフトテニス部 中学 新人戦港区予選 個人 優勝中二神野。

合宿のひとつこま(アーチェリー部)



大会区三位。夏季大会区三位。高校 新人戦 都ベスト32。夏季大会 都ベスト16。ベスト16は二年連続。ベスト8 決めの日 大豊山戦は、三点差の大接戦だった。高校第一ブロック選抜選手 高三清水 裕喜。

団体 優勝(中二神野・浪・村重・本岡・坂田・松本)。新人戦都大会 個人 ベスト32 中二神野・浪。団体 ベスト64。夏季大会港区予選 個人 優勝中三神野・浪。団体 優勝(中三神野・浪・村重・本岡・坂田・松本)。

卓球部 中学 高校卓球大会団体 中学Aクラス ベスト4(中三芦田・松野・江原・服部・中二堤・坂井)。都中学校第一ブロック大会 団体三位(中三坂井 堤 吉田 河西 兼子 菊池)ダブルス ベスト8 中三坂井・堤組。

ダンス部 三月FM世田谷主催高校生文化祭「青二祭」出演。文化祭でフロンティア大賞受賞。

軟式野球部 中学 夏季大会ブロック予選 ベスト4。高校 秋季大会支部予選 三回戦進出。なお、今夏より、高校部が発足。

バスケットボール部 中学 春季

麻布文庫新刊案内

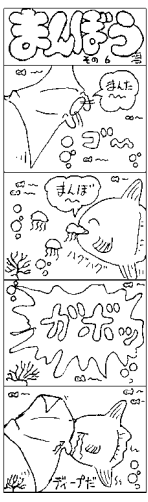
麻布学園国際交流委員会編『僕たちは冒険する・麻布生の異文化体験記』本書はこの十年ほどの間に「論集」など学内刊行物に発表された十四の文章を集めたものである。麻布生の留学などの海外体験を通して、底に浮かび上がってくるのは、麻布という学校や日本という国の中にあるこの間の私たち自身だったりする。

(社会科 山岡)

原口 宏『まんぼつ君 海に潜る』(はらくち ひろし氏は本校生物科教師)著者はスキューバダイバーであり、そのフィールドは海外にも及ぶ。豊かな知識と深い愛情を持って海の生き物を観察しており、時には自分が観察対象になりきってしまうことさえある。文体は大海を漂うマンボウのようにゆったりとしていてユーモラスでもある。

著者自筆の四コマ漫画「マンボウ君」と豊富な挿絵も楽しい。

(英語科 龍谷)





全国大会での一局(囲碁部)

《文化部系》

アニメーション研究部 文化祭には、体育館での小展示「フロンティア」団体として展示。その他、ビデオ作品の鑑賞を行っている。

囲碁部 都中学大会個人戦優勝
中二坂入俊輔 東京都高等学校文化祭囲碁大会 三位高一由岐洋輔
六位高二光永豊 七位高三麻生偉宏 関東地区高校囲碁選手権男子個人戦 優勝高三由岐洋輔 少年少女囲碁大会全国大会進出 中二坂入俊輔 全国高校囲碁選手権大会全国大会男子団体戦 準優勝(高二由岐洋輔 高三光永豊 水田雄二) 全国大会決勝進出は十六年ぶり。同全国大会男子個人戦 ベスト16高二由岐洋輔 一回戦敗退高三光永豊 全国高等学校総合

PTAファミリーコンサートに、部員が多数参加。文化祭に「麻布音屋」を出展。

化学部 班ごとに水質調査、染料、香料、金属、食品添加物、結晶、高分子の研究。文化祭展示「ヒーロー」は研究展示大賞を獲得。十三年度化学グランプリ 優秀賞 淵脇純太 金賞 佐藤景一 榊原賢一郎。

管弦楽部 第39回定演(シューベルト「ロザムンデ」序曲 ピゼー「カルメン」組曲 ドボルザーク交響曲第八番)。文化祭スプリングコンサート。文化祭展示「名曲喫茶」で飲食展示大賞受賞。第40回定演は九月二日を予定(チャイコフスキー交響曲第五番 チャイコフスキーバイオリン協奏曲 プラームス悲劇的序曲)

文化祭に東京都チーム主将として高二由岐洋輔君が出演、準優勝。

演劇部 三月に解散。
オセロ部 登竜門戦優勝
高一佐藤遙 関東オーブンB級優勝 中三齋藤信吾 中二藤野公茂。全日本選手権大会中学生の部 準優勝中二立木英四位中三高崎悠太郎 全日本学生選手権大会 優勝高一坂江哲。

音楽部 二月 冬の演奏会。六月サマーコンサート

軽音楽部 文化祭、PTA主催のファミリーコンサートの他、年一回、校内でライブを行っている。

催眠部 文化祭に参加後、解散。
写真部 文化祭や運動会で撮影を行い、PTA等に提供。その他、合宿などで撮影会を行っている。

将棋部 キリンビバレッジカップ学生将棋選手権 団体戦 三位(山内一馬・平田大祐・鹿島健介・小林知直・山内祥敬・古阪馨)。十四年度高校将棋選手権全国大会 団体戦 三位(大西竜太郎・小林知直・若田悠)。高校竜王戦全国大会 ベスト8高三小林知直。

書道部 文化祭では古典臨書を中心に中二から高三までの部員が出品した。

生物部 春合宿沖縄ケラマ諸島。夏合宿 山梨北岳・甲斐駒ヶ岳。観察と採集を行った。

チェス部 '01全日本チーム選手権優勝。'02全日本選手権 八位高二佐野富三 十三位中二南條遼介。全日本ジュニア選手権 優勝中二南條遼介。ジャパントリーグ 三位中二南條遼介。南条君はチェスオリンピアード(於スロベニア)に出場決定。地歴部 春旅行 広島。文化祭で関ヶ原の戦いについて展示。

鉄道研究部 秋の撮影会(新潟) 冬の撮影会(会津) 春の撮影会(北陸)。また、文化祭展示も例年通り好評だった。

天文部 十一月 しし座流星群観測会。十二月 冬の大観測会。三月 春の大観測会。五月 文化祭展示。

討論部 春合宿 富山五箇所村探訪・ディベートと討論。夏合宿 仙台 平泉歴史探訪。文化祭ではディベートと展示を行った。

バックギャモン同好会 ジャパンオープンU18 ベスト4を占有。文化祭で東大との交流戦。部内でのリーグ戦を今年から開始。パソコン同好会 毎週プログラムニングの講座を行い、春・夏休みは講習会を開いている。その他、H



チャンピオンを目指す!!(オセロ部)

TM、DTMなどについても講習。文化祭で部員の作ったプログラムを展示し、展示大賞を受賞。

美術部 春休みに私学8校の合同展(於 目黒美術館)に参加。今年度は幹事校となっている。

物理部無線班 文化祭展示は例年通り好評を博した。夏合宿 群馬県湯川キャンプ場 二五名参加。

漫画研究部 文化祭では一年間に描きためた模写を展示し、最終日に無料配布した。また、「SOCIETY」十三号を発行。

TRPG研究会 TRGP(テーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム)を週五、六回行っている。七月 数校を招いてコンベンションを実施。

〔編集後記〕

「麻布の丘」第五号をお届けします。この広報紙は、卒業生、在校生、そして将来麻布に入学することを希望している人々に向けて、発信しています。

過去・現在・未来をつなぐものという本紙発行の主旨がうまく伝えられれば幸いです。(山内)

「麻布の丘」に「広報委員会
齋藤久臣(理事)・山内修(国語)
甘利貞彦(理科)・水上信廣(社会)
廣瀬武久(国語)・鳥越泰彦(社会)
松田隆(国語)
題字・星野新次郎(書道)」